

女子だけ全裸になったプールの授業

男子達が全裸でプールを泳がされてから数日経った。

教室は静寂に包まれ、男子たちは一人一人が屈辱と羞恥心に苛まれていた。拓哉は机に突っ伏し、「あんなに見られるなんて、もう学校に来るのも嫌だ...」と呟く。和希は窓の外を見つめ、「女子におちんちん見られて死にたい...」とつぶやく。龍太は、「あの時の視線、まだ感じるよ。もうダメだ...」と顔を覆い、健太は大柄な体を小さくして、「こんなの、男として終わった気分だ」と嘆く。

一方で、女子たちは男子のおちんちんについての話題で盛り上がっていた。美咲は、「拓哉の包茎だったよね。ちょっとかわいそうだった」と笑う。さくらは、「和希の細くてまるで子供みたいだった」と言い、「龍太の曲がってるのが面白かった」とあやが付け加える。ひか

りは、「健太のは大きかったけど、皮が被ってて笑っちゃった」とからかう。

「花香も、拓哉のちんちんにすっごく興味ありそうだったよね」と弥奈が笑いながら言う。

「あれ見ないようにしてるけど、目が全然離れてなかった」と美咲が同意する。「花香、真面目な顔してるけど、ちょっと変態じゃん」とあやがささやく。花香は「全然見てないよ！」と言うが、顔が真っ赤だ。

「弥奈はちょっと楽しんでたみたいだね」と理恵が笑いながら言う。「うん、でもそのあとめっちゃ恥ずかしそうにしてたよ」と美咲が付け加える。「弥奈、笑いながら見てたけど、顔真っ赤だった」とひかりが言う。弥奈は「仕方ないじゃん！」と笑っている。

理恵は特に、「拓哉のちんちん、みんなが見てる中で反応してたの、可笑しかった」と友達に話し、遥香は「みんながあんなに恥ずかしがってるのを見て、ちょっと気の毒に思ったけど、でもやっぱキモかった」とつぶやく。さくら

は、「やめなよ、かわいそうじゃん」と言うが顔から笑みがこぼれている。女子たちの間では、男子の裸体についての話がやめどなく続き、笑い声が教室に響いていた。

次の週のプールの授業、先生は再び生徒たちの前に立ち、「今日は女子が全裸になることが決定した。先週男子のデータはとったから、次は女子だ」と告げた。男子たちはその一言で、まるで復讐の喜びを感じたかのように跳ね上がり、「やったぜ！」「仕返した！」と大声で喜ぶ。男子達は突然の発表に喜びが収まらない。拓哉は「花香の身体、見たいな」と内心で思う。和希は「弥奈の大きなおっぱいが見られるのか...」と興奮を隠せない。龍太は「さくらの丸いおしり、見てやる」と決意し、健太は「ひかりの大きなおっぱいが見たい」と笑う。

女子たちはこの決定に猛反対する。「何で女子だけ！」「男子がやったからって、女子もやるの？」「おかしい！」と声を上げるが、先生は「先週男子もやったじゃないか」と言って聞

き入れなかった。女子たちは泣きそうになり、「嫌だ...」「絶対にやだ！」と抵抗するが、最終的には仕方なく従うしかなかった。

花香は心の中で「こんなの、絶対にやだ...」と思いながらも、外見では平静を保とうと努める。彼女の視線は男子たちに向けられ、その反応を見極めようとする。しかし、内心では強い羞恥心と不安が渦巻いている。男子たちは密かに人気の花香に見とれ、「花香の全裸、早く見たい」と心の中でつぶやく。

弥奈は「うわ、なんで女子が！」と声を上げ、恥ずかしさから顔を真っ赤にする。「嫌だよ...」と泣きそうになりながらも、なんとか明るさを保とうと努力する。男子たちはその姿に興奮し、「弥奈、先週いいだけ馬鹿にしてきたからな、絶対見てやる」とささやきあう。

プールサイドで、男子が見ている前で、女子たちはスクール水着を脱ぐように指示された。全員の視線が集まる中、女子たちは一列に並び、水着を脱ぎ始める。

美咲はスクール水着を肩からずらし始める。水着が胸元から下がると、彼女の小さなおっぱいが露わになる。乳首はピンク色で、男子たちの視線が釘付けになる。「見ないで...」と小声で言いながら、水着が腰まで下りると、彼女の下半身が丸出しになり、恥ずかしさから顔が真っ赤になる。彼女の下半身は滑らかで、股間がきれいなラインを描いている。男子たちは「美咲の肌、白すぎる」とささやき、興奮で水着がぴったり張り付くおちんちんが膨らむ。美咲は男子た